

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	衛生管理	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	38時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	杓谷知里	実務経験のある教員	○
実務内容	薬剤師 グリーンファーマシー ひまわり薬局 高知店		
テキスト	『衛生管理』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として必要な感染症の的確な知識、技能を習得する 代表的な感染症の病原体、感染源、感染経路、症状、予防対策などを理解する		
授業概要	公衆衛生学、微生物学の歴史と感染症の法律上の分類方法などから感染症の体系の理解を図る 理容の業務に必要な衛生管理の知識の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1	公衆衛生の意義と課題	健康の意義を理解する	
2～3	公衆衛生の発展の歴史	欧米や我が国の公衆衛生・消毒法にかかる歴史と歴史上の人物を学ぶ	
4～5	保健所と理容業美容業	保健所の機能と事業について把握する	
6～9	母子保健	母子保健の意義や健康管理を学ぶ	
10～13	成人・高齢者保健	生活習慣病、高齢者の保健と福祉、介護保険制度について学ぶ	
14～15	精神保健	精神保健行政について学ぶ	
16	前期テスト		
17～19	環境衛生の概要	環境とは何かを理解する	
20～22	空気環境	空気や大気環境を学ぶ	
23～24	温度湿度気流と健康	健康で快適な生活について学ぶ	
25～26	衣服の衛生	衣服についての特性を理解する	
27～31	住居の衛生	住居の重要性について学ぶ	
32～33	上下水道と廃棄物	公衆衛生の基盤としての上水道廃棄物の処理システムを理解する	
34～35	衛生害虫とネズミ	健康を害する鼠族、昆虫等の対策を学ぶ・各種公害について学ぶ	
36～37	環境保全	具体的な衛生管理の概要について理解する	
38	後期テスト		
到達目標	理容師として必要な衛生における知識の理解を深める		
評価方法	1・定期テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	保健	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	65時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	杓谷知里	実務経験のある教員	○
実務内容	薬剤師 グリーンファーマシー ひまわり薬局 高知店		
テキスト	『保健』 日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験に向けて、人体の構造や機能について頭頸部を中心に学び、理解を深める 保健衛生分野の職業である理容師に必要な解剖学や生理学について学ぶ		
授業概要	人体の構造や機能を全体的に学び理解を深める 必要に応じてプリントなどを使用し理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～2	はじめに	授業の概要・人体の構造と機能	
3～4	人体各部の名称	人体各部の主な名称を(9つの部位)や、体の面と方向を学ぶ	
5～11	頭部・顔部・頸部	頭部・顔部・頸部の体表解剖学	
12～14	顔面	眼・耳・鼻・口とその周辺の特徴を学ぶ	
15～16	骨格器系	骨の種類と構造・骨の連結 骨格器系とそのはたらき(頭蓋・脊柱・胸郭)	
17～20	筋系	筋の種類とその特徴(筋の種類の表) 主な骨格筋とそのはたらき 表情筋と表情運動(眼・口・鼻や耳を中心とした筋の動き)	
21～27	神経系	神経系の成り立ち(神経大別の表)や中枢神経とそのはたらき 末梢神経のはたらき(自律神経系支配の効果の表)や仕組み	
28	前期テスト		
29～31	感覚器系	視覚・聴覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚	
32～51	血液・循環器系	血液のあらまし・各血球成分の役割 血液循環のあらまし(心臓を中心とした循環を理解)	
52～57	呼吸器系	呼吸器系のあらまし・肺の仕組みとガス交換	
58～64	消化器系	消化器系のあらまし・消化管の仕組み 消化管の働き・消化と物質代謝	
65	後期テスト		
到達目標	理容師として必要な人体の構造や生理解剖学的な知識を系統的に理解を深める		
評価方法	1. 定期テスト 90% 2. 出席状況 5% 3. 学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	化粧品化学	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	34時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・パーマネント・ヘアカラー等）		
テキスト	『化粧品化学』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師に必要な化粧品化学分野の理解を深め、理容技術を高め安全に行う国家資格取得のための実力を養う		
授業概要	テキストに沿って、化粧品概論、原料、基礎化粧品の順に講義し理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
回	項目	内容	
1～9	化粧品総論	化粧品の社会的意義と品質特性を学ぶ 化粧品の定義や製造販売、品質、表示等の規制の理解を深める 化粧品の安全性と取り扱い上の注意事項を学ぶ 化粧品の安全性や表示成分、トラブル等を学ぶ	
10～14	化粧品の成り立ち	化粧品の対象となる人体各部の性状の知識を深める 水性顔料の種類と特性を学ぶ 油性顔料の種類と機能を学ぶ	
15～16	化粧品の成り立ち	界面活性剤の基本的な性質と種類と化粧品への応用を学ぶ	
17	前期テスト		
18～22	化粧品の成り立ち	高分子化合物の種類と特性、化粧品への応用を学ぶ	
23～33	化粧品の成り立ち	色材と化粧品の関係や種類特性を学ぶ 香料の種類と調合等を学ぶ その他の配合成分として品質保持成分や特殊成分を学ぶ ネイル、まつ毛エクステンション用材料について知識を深める	
34	後期テスト		
到達目標	理容師として必要な化粧品の原料や種類、使用方法や安全性などを理解する		
評価方法	1・定期テスト(小テスト等の提出物) 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階

段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	文化論	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	34時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『文化論』 日本理容美容教育センター		
教育目標	理容美容の語義や歴史を学び日本のファッション文化史及び西洋のファッション文化史を学び現代までの変遷を学び理解する 礼装における和と洋の違いと文化を学ぶ		
授業概要	「理容」「美容」とは何か 価値観や美意識の多様化やニーズの文化と歴史と変遷を学びながら日本と西洋の相違点と融合の理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～16	総論 日本理容美容の歴史	理容業・美容業の発生の成り立ちを学ぶ 理容業・美容業（江戸時代・近代現代）を理解する 理容業、美容業の歴史の理解を深める 縄文・弥生・古墳時代、古代（飛鳥・奈良・平安）中世（平安末・鎌倉・室町・戦国）について学ぶ	
17	前期テスト		
18～33	ファッション文化史 日本	縄文・弥生・古墳時代 古代（飛鳥・奈良・平安時代） 中世（平安時代末期・鎌倉・室町・戦国時代） 近世（戦国時代・安土桃山時代） 近代（江戸時代）	
34	後期テスト		
到達目標	理容師の歴史や流行等を知り、今後のライフスタイルに生かす		
評価方法	1・定期テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	理容技術理論	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	73時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎・清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論』 公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	理容師として最低限必要な理論技術を理解し実践にて応用できる力を身に付ける 理論を理解し効率よい教育方法を行い技術を習得する		
授業概要	技術を習得するには時間がかかるが、理容技術の意義を十分理解すれば技能の習得ができる		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	はじめに	理容の意義、職業としての理容の役割と衛生に関する知識を学ぶ	
5～7	人体各部の名称	手を使って施術を行う対象となる人の頭部・顔部の名称を正しく覚える	
8～10	理容技術の基礎・設備	技術部位に対する位置を学ぶ	
11～17	パーマメントセット	パーマの考え方や用剤の種類・特徴・かかる仕組みを理解する	
18～21	理容用具	理容師として理容用具を学ぶにあたり、人体と用具との関係を理解する 用具についての基礎的な知識を学び、理解を深める	
22～36	ヘアカッティング	ヘアスタイルを実際に作る手段としてカッティング技術の必要性を学ぶ その技術を十分理解してカッティング技術理論を学ぶ ヘアスタイルを作るための基本的な原則を理解する	
37	前期テスト		
38～42	まとめ	前期授業の振り返り	
43～50	理容エステティック	エステ本来の目的、人間の内面的な部分に及ぶ総合的な技術である事を学ぶ 肌の状態・機器についても十分な理解をする	
51～58	ヘアカラーリング	染毛剤によって毛髪に様々な色彩をあたえ、ヘアスタイルや服装・生活に調和した美を表現することを学ぶ	
59～65	シャンプーイング	毛髪美容の基本であるシャンプーを通し、頭皮・毛髪の清潔を保つことの意義を学ぶ シャンプー剤や技法について科学的理解を高めること学ぶ	
66～72	成績評価は秀（100～90）・優	シェービングにおける技術を行うにあたり皮膚と髭を十分理解する	
73	後期テスト		
到達目標	理容師として必要な技術理論を理解する		
評価方法	1・定期テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	理容実習	授業方法	実習
開講学期	前期・後期	年間授業	535時間
授業単位数	18	必修・選択区分	必修
担当者	清藤千秋・仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容実習』 公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	国家試験にかかる技術を習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付ける 技術への科学的根拠を理解し安全で安心な理容技術者としての育成を図る		
授業概要	理容技術における作業姿勢、用具の知識を学びそれらを使った様々な技術の習得を図る カッティング・ワインディング、パーマメント・ウェービング、ネイル、シャンプー、カラー、エステティック技術等		
時間外学習	校外実習において理容師としての基礎的技術及び接客の理解を深める		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	導入	理容技術における基本姿勢・用具説明・扱い方・実践	
8～84	パーマメントウェービング	ブロッキング技術・方向と手順 ワインディング・ロットの選定・角度と方向 コーミング技術・タイムトライアル 大会指導（Cライン巻き）	
85～142	大会練習	各競技種目練習・タイムトライアル	
143～164	デザインヘア	ブロッキング・デザインカットの基礎技術	
165～186	スタンダードヘア	ミディアムスタイル・ブロースのカットシステム及び技術姿勢を十分に理解し技能を身につける	
187～215	大会練習	学生大会各競技種目練習・タイムトライアル	
216～223	前期テスト	ワインディング技術	
224～298	大会練習	学生大会各競技種目練習・タイムトライアル	
299～305	学生大会	学生大会出場及び見学	
306～334	フェイシャルトリートメント	作業位置・タオルの基本的持ち方・てん包・密着・清拭法 塗布・マッサージ・拭き取り スキンケア	
335～406	シェービング	メンズネック・シェービング、ウィッグ及び相モデルによる演習 レディースシェービング	
407～449	シャンプーイング&リンシング	スタンダードシャンプー・バックシャンプー	
450～527	総合復習	1年間を振り返りながら相モデル等で復習を行う	
528～535	成績評価は秀（100～90）・優	シェービング及びフェイシャルトリートメント	
到達目標	国家試験の合格を目標とする		
評価方法	1・技術確認テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	国家試験に必要と思われる項目について注意を喚起しながら講義を進める		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	接遇マナー	授業方法	講義
開講学期	前期	年間授業	34時間
授業単位数	1	必修・選択区分	必修
担当者	西峯由規	実務経験のある教員	○
実務内容	専門学校教員・一般) 日本産業カウンセラー協会産業カウンセラー 一般) 日本産業カウンセラー協会キャリアコンサルタント		
テキスト	早稲田教育出版 サービス接遇検定3級公式テキスト・サービス接遇検定実問題集3級 株式会社ウィネット 実践ビジネスマナー		
教育目標	社会人としてのビジネスマナーを知ることから実践できるようになることを目指す サービス接遇検定3級合格を目指す		
授業概要	テキストを基に実際に行動できるような実践形式の講義 過去問題を解きながらサービス接遇検定3級合格に向けての講義		
時間外学習	日常生活の中で復習と確認を行う		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	基本動作	立つ姿勢・お辞儀の仕方・椅子の立ち座り・歩き方・表情・発声練習	
	言葉遣いの基本	話の仕方、話の聞き方・敬語の基本・間違えやすい敬語	
5～8	電話応対	電話応対の注意点・電話の受け方の基本	
	サービス接遇検定対策	過去問題①を解く・解説	
9～12	電話応対	電話の受け方の基本	
	サービス接遇検定対策	過去問題②を解く・解説	
13～16	サービス接遇検定対策	過去問題③④を解く・解説	
17～19	電話応対	伝言メモの作成	
	サービス接遇検定対策	過去問題⑤を解く・解説	
20～22	電話応対	こんな電話の時あなたは	
	サービス接遇検定対策	過去問題⑥を解く・解説	
23～26	サービス接遇検定対策	過去問題⑦⑧を解く・解説	
27～34	説明会など	就職に関する説明会や各種セミナー	
到達目標	サービス接遇検定3級の取得 就職活動や入社時に好印象を与える社会人のマナーの習得を目指す		
評価方法	1・修得状況テスト 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀(100～90)・優(89～80)・良(79～70)・可(69～60)・不可(59点以下)の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	受講時はビジネススーツを着用する		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	総合教養	授業方法	講義
開講学期	前期・後期	年間授業	42時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択一般
担当者	仲田大吾郎・大倉美智子	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	開講時に担当教員が指示及び配布する		
教育目標	「自分」と「将来」を見つけるために研究し理解する		
授業概要	<p>確かな基礎知識・技術に加え、考えるための道具＝方法を身に付ける</p> <p>個の可能性を無限に広げ、学ぶ喜びを図る</p> <p>業界や異業種の講師を迎えて講話等を行い、働く意義等の理解を図る</p>		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～3	はじめに	<p>セミナー</p> <p>コミュニケーション能力向上に向けた講話</p>	
4～11	講話	<p>セミナー</p> <p>今を有意義なものにする思考法</p> <p>働くことの意義など</p>	
12～14	講話・ワークショップ	<p>セミナー</p> <p>先輩理美容師の人生を聞き目指す理美容師像を描く</p>	
15～17	パーソナルカラー	<p>「色の三属性」「ガイダンス」「色相」</p> <p>「色相環」「慣用色名」</p>	
18～23	4シーズンタイプ 「トーン」	<p>「等色相面」「トーン表」</p>	
22～25	似合わせテクと「色素」	<p>理論「色素と似合う色」「自分の色素」「対比・光と色」</p>	
26～39	検定対策	<p>タブレットを使用した模擬試験</p>	
40～42	検定	<p>3級取得を目指す</p>	
到達目標	理容師として必要な基礎的な教養などを身につける		
評価方法	<p>1・作文提出 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%</p> <p>成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。</p>		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	カラーワーク (カラー・シャンプー)	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	63時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般 (カット・パーマメント・ヘアカラー等)		
テキスト	『理容・美容技術理論』『理容・美容実習』 日本理容美容教育センター		
教育目標	ヘアカラーとシャンプー技術習得・理容室において必要な接客や技能技術を身に付け、安全で安心な美容技術者としての育成を図る		
授業概要	基本的なシャンプー技術を実習にて習得・ヘアカラーによる塗布の手順・染毛剤と染毛料の塗布、染毛剤の調合、新生毛と既染部の塗布技術の理解と習得		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～7	シャンプー概論	クロス掛け、ブラッシング、シャンプー手順 (サイド) を理解する	
8～30	シャンプー技術	サイド及びバックシャンプーの一連の動作を習得する シャンプー一連の手順、リンス、タオルドライ、誘導、ヘアドライ バックシャンプー等1連の操作手順を習得する	
	ヘアトリートメント	トリートメント (ヘア・スカルプチュア)、ヘアパック、ヘッドマッサージ操作手順を習得する	
31～42	テスト		
43～46	カラー概論	カラーの目的、カラー剤の種類、カラー用具、塗布の手順について学ぶ	
47～58	酸化染毛剤	タイプ別の塗布 (新生毛、リタッチ) 技術、乳化、コーミング等の実習する	
		白髪染め (新生毛、リタッチ) 技術をウィッグを使い実践作業を行う ロング、ショートヘア技術・スライシング・ウィービングを学ぶ	
59～63	酸性染毛料	塗布順序、コームテクニック (ロング、ショート) を学ぶ	
到達目標	理容師に必要なヘアカラーの知識と技術を身に付ける		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5%		
	成績評価は秀 (100～90)・優 (89～80)・良 (79～70)・可 (69～60)・不可 (59点以下) の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	サロンワーク (コールド・ネイル)	授業方法	実習
開講学期	前期・後期	年間授業	89時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』 公益社団法人理容美容教育センター		
教育目標	コールドパーマネントウェーブの用剤・用具・テクニックの修得とネイル技術を習得し、理容室において必要な接客や技能を身に付け安全で安心な理容技術者の育成を図る		
授業概要	ボリュームとロッドの選定や毛束の角度の出し方を学ぶ ロッドの形状によるウェーブ、カール、ロール仕上がりを見る		
時間外学習	理容理論		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～3	オールバックスタイル	男性の基本スタイルを学ぶ	
4～7	サイドパート	流行・時代・世代にとらわれず好まれるスタイルを学ぶ	
8～11	サーファースタイル	男性・女性を問わず好まれるスタイルを学ぶ	
12～21	各スタイルの仕上げ	用剤の塗布の仕方や反応のチェックなどを行う	
22～26	ネイルケア	手指消毒・ファイリングキューティクル処理・マッサージ・バッフィング等を学ぶ	
27～70	ネイル技術	ネイルケア・ネイル塗布（ベースコート・カラーリング・トップコート）を習得する アーティフィシャルネイル（展示）ネイルアート（フレンチ・マーブル）を習得する フットケア・手足のマッサージを習得する	
71～73	講師作品展示	講師による作品制作・撮影	
74～77	イメージ決め	作品撮りに向けて、テーマ・イメージ・モデル決め等	
78～79	作品制作	撮影に向けてのシミュレーション	
80～86	撮影	作品制作（ヘアー・メイク・衣装）その後各グループ撮影	
87～89	発表	テーマの発表・投票・優秀作品発表	
到達目標	お客様の個性・容姿・服飾・好み・流行などを考えたパーマスタイルデザインの修得 ネイル検定3級取得に向けた基礎的ネイル技術の習得		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	デザイン工学 (刃物工学・デザインカット)	授業方法	実習
開講学期	前期	年間授業	80時間
授業単位数	2	必修・選択区分	必修
担当者	仲田大吾郎・山下哲二・岡省吾	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般(カット・シェービング・ヘアカラー等)		
テキスト			
教育目標	デザインヘアをつくるための目的に応じたシザーズやコームの持ち方・操作・技法を学ぶ 理容師として必要な刃物の構造や頭部の成り立ちを理解し、それぞれに対応するヘアデザイン設計の仕方を学ぶ		
授業概要	基本のカット順序の応用、それぞれの長さと共に変化するカット技法の違いその範囲に納まるスタイルの理解を図る 刃物の切れ味や研磨の影響、金属の性質・硬さなどを理解し実際に研磨を行い理解を図る		
時間外学習			
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～14	刃物の構造・研磨	レザー・シザーズの種類や構造を理解し研磨技術も学ぶ	
15～21	頭や顔のバランス・総合	頭部・顔部の3つの形の特徴を学び、各型のカバーポイントを理解する	
22～35	カットの実際	デザインヘアの基本カット技法を理解する 外来講師によるサロン技術の実際(レディースカットの一例)	
36～42	確認テスト		
60～73	カットの基礎知識	シザーズ取り扱い・シザーズトレーニング・ブロッキングを学ぶ	
	カット実践 スタイリング	ベーシックカット (ワンレングス・グラデーション・レイヤー) ・刈上げ アイロンワークからのスタイリング	
74～80	テスト	学習したことを参考に自由作品を制作し優秀作品発表	
到達目標	理容師として必要な得た知識を、一人一人に合ったスタイルなどを提案し、それを活かせるよう基礎的技術の向上を目指す		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀 (100～90) ・優 (89～80) ・良 (79～70) ・可 (69～60) ・不可 (59点以下) の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

|

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	メンズスタイル (ミディアムカット・アイロン技術)	授業方法	実習
開講学期	前期・後期	年間授業	42時間
授業単位数	1	必修・選択区分	○
担当者	清藤千秋・坂本康正	実務経験のある教員	
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』 公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	各技法の勉強も含めカットのシステム及び技術姿勢を理解する アイロンをぶれないようにしっかり持ち均一の熱・圧力・テンションをかけられるようトレーニングする		
授業概要	寝かせる部分と刈り上げる部分を組み合わせるスタイルで、スタンダードヘアカットの基本の理解を図る アイロンを使用してもパーマネットウェーブと同じような効果を得られることを学ぶ		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～2	理論	中髪型（ミディアムヘア）スタンダードヘアの基本型を学ぶ	
3～14	技術	スタンダードヘアのカット技法（すくい刈・連続刈・押し刈・固定刈・指間刈・回し刈・直鋏）を学ぶ 決められた位置や姿勢を行いコームの運行角度・楕数を正確に繰り返し覚える クリッパーワーク・連続刈・すくい刈・固定刈・指間刈・直鋏・クリッパーラインのぼかし・髪際部・もみあげ・ネック周辺の処理を習得する	
15～21	前期テスト		
22～42	技術	アイロンの持ち方・姿勢・操作・ウィッグカット・ドライヤーセット 平アイロンセット ウィッグカット・パンチアイロン操作 パンチアイロン操作・丸アイロン操作 ウィッグ フェードカットカット 丸アイロンパーマ	
到達目標	最大のパートナーであるお客様の信頼を得るために技術を磨くとともにお客様から喜びを受けられるよう理解を深める		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	授業の出席状況と受講の態度に注意すること		

年度	2024	学科・学年	理・1
授業科目	シェービング・エステ	授業方法	実習
開講学期	後期	年間授業	51時間
授業単位数	1	必修・選択区分	選択専門
担当者	清藤千秋	実務経験のある教員	○
実務内容	理容業務全般（カット・シェービング・ヘアカラー等）		
テキスト	『理容技術理論』『理容実習』 公益社団法人日本理容美容教育センター		
教育目標	メンズ・レディース・ブライダルなどのシェービング技術とエステ技術の両方を学ぶ		
授業概要	お顔そりからデコルテや背中までカミソリを使ったシェービングケアを学ぶ		
時間外学習	技術の自己研鑽		
授 業 計 画			
時間	項目	内容	
1～4	理論・導入	皮膚の構造・感覚やひげ、衛生面や感染症、シェービングの種類について学ぶ シェービングを実現するための作業姿勢・位置・イスの操作などを学ぶ	
5～7	レザールの持ち方 運行操作	レザールの持ち方から操作の原理を理解する	
8～14	メンズ・レディース シェービング	シェービング及びグルーミング術を理解する	
15～21	確認テスト		
22～28	エステティック	スキンケア（クレンジング～パック剤・使用機器まで）を理解する	
29～35	マニピュレーションマッサージ・サクションマッサージ	フェイシャルトリートメント・フェイシャルケアの目的をよく理解し適切な処置ができるよう学ぶ	
36～42	確認テスト		
43～51	美肌検定	美肌を引き出すための知識を学び検定取得を目指す	
到達目標	最大のパートナーであるお客様の信頼を得るために技術を磨くとともにお客様から喜びを受け取れるよう理解を深める		
評価方法	1・技術の確認 90% 2・出席状況 5% 3・学習意欲 5% 成績評価は秀（100～90）・優（89～80）・良（79～70）・可（69～60）・不可（59点以下）の5段階で表記する。合格評価は「可」以上を合格とする。		
履修上の注意	国家試験に必要と思われる項目であり注意を喚起しながら講義を進める		